

環境センターの稼働状況等について

資料 1

守山市環境センター運転状況（10月～翌年9月：1年間）

		旧環境センター (R2.10月～R3.9月)	現環境センター (R3.10月～R4.9月)	増減 (%)	備考
焼却施設	・処理量（トン）	17,030	17,671	+ 641 (+ 3.8 %)	処理量については、搬入量と破碎処理後に発生する可燃残渣と前処理で手選別している焼却ごみを焼却した量。
	・稼働日数（日）	352	320	- 32 (- 9.1 %)	
	・1日の平均処理量（トン）	48.3	55.2	+ 6.9 (+ 14.3 %)	
破碎施設	・処理量（トン）	3,939	1,813	- 2,126 (- 54.0 %)	現在の施設規模 :10.68トン/日(5h)
	・稼働日数（日）	259	262	+ 3 (+ 1.2 %)	
	・1日の平均処理量（トン）	15.2	6.9	- 8.3 (- 54.6 %)	
CO 2排出量（t-CO2）		14,578	14,173	- 405 (- 2.8 %)	トレイの焼却により排出量が増になったが、事業系廃プラ規制や発電等の効果により、排出量が相殺されたことで微減。

発電と売電の状況

R3.10月 ～R4.3月 実績	発電量	売電量				
			FIT分	非FIT分	FIT分	非FIT分
合計 (計画)	4,437,710 kWh (2,910,000 kWh)	2,988,142 kWh (1,710,000 kWh)	1,392,474 kWh	1,595,668 kWh	46.6%	53.4%

R4.4月～ 9月 実績	発電量	売電量				
			FIT分	非FIT分	FIT分	非FIT分
合計 (計画)	4,018,380 kWh (2,910,000 kWh)	2,381,371 kWh (1,710,000 kWh)	935,579 kWh	1,445,792 kWh	40.3%	59.7%

※ 1 計画発電量、計画売電量は、一般廃棄物処理基本計画(令和2年7月)の年間計画値×1/2

※ 2 FIT(バイオマス)は、20年間の固定価格買取制度。

※ 3 FIT割合は、ごみに含まれる、紙類、厨芥類、草木類、布類の割合であり、毎月のごみ分析により変動。

R4 計画	発電量	売電量				
			FIT分	非FIT分	FIT分	非FIT分
合計	7,333,000 kWh	5,111,000 kWh	2,300,000 kWh	2,811,000 kWh	45.0%	55.0%

※ 売電量5,111,000kWh = 約1,200世帯分の消費電力/年間(環境省2019: 1世帯年間消費電力量4,047kWh)

ばいじん処理物の状況

令和3年10月に、大阪湾広域臨海環境整備センターへ搬入していた「ばいじん処理物（飛灰）」がダイオキシン類濃度の受け入れ基準値（3 ng-TEQ/g）を超過しましたことにつきましては、ハード・ソフト両面において改善を実施し、令和4年2月から搬出を再開しております。

その後は、ダイオキシン類の分析結果や変動に注視するなか、運転管理を徹底しています。

【令和3年2月以降のダイオキシン類分析結果 単位：ng-TEQ/g】

ばいじん処理物 （飛灰）	令和3年度		フェニックス 受入基準値
	2月	3月	
	0.67	0.81	3.0



※フェニックス：大阪湾広域臨海環境整備センター

ばいじん処理物 （飛灰）	令和4年度						フェニックス 受入基準値
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	0.54	0.55	0.86	0.72	0.60	0.55	3.0

施設見学会の状況

令和3年10月に、「もりやまエコパーク 環境センター」が本格稼働し、多くの方々に施設見学をしていただいております。守山市民のみならず、市外や県外からも施設見学に来ていただいております。

「Think of Earth from Moriyama」をタイトルにごみの現状について学び、考え、未来の守山さらに地球を守るように行動へつなげてもらうような見学説明を進めており、見学の最後には、見学者ひとりひとりに感想を記載していただいております。また、四季折々の花を植え、見学者に楽しんでいただいております。

【R4見学者状況】

延べ見学者数 53団体 1,479人（10月末現在）

9小学校 2中学校 557人
7学区 7自治会 334人
26団体(企業等) 452人
もりやまエコフェスタ 136人

※R3:2,132人 R2:308人 R1:1,141人



施設見学の様子



施設内の啓発展示物



秋のコスモス



見学後の感想を掲示



今後のスケジュール

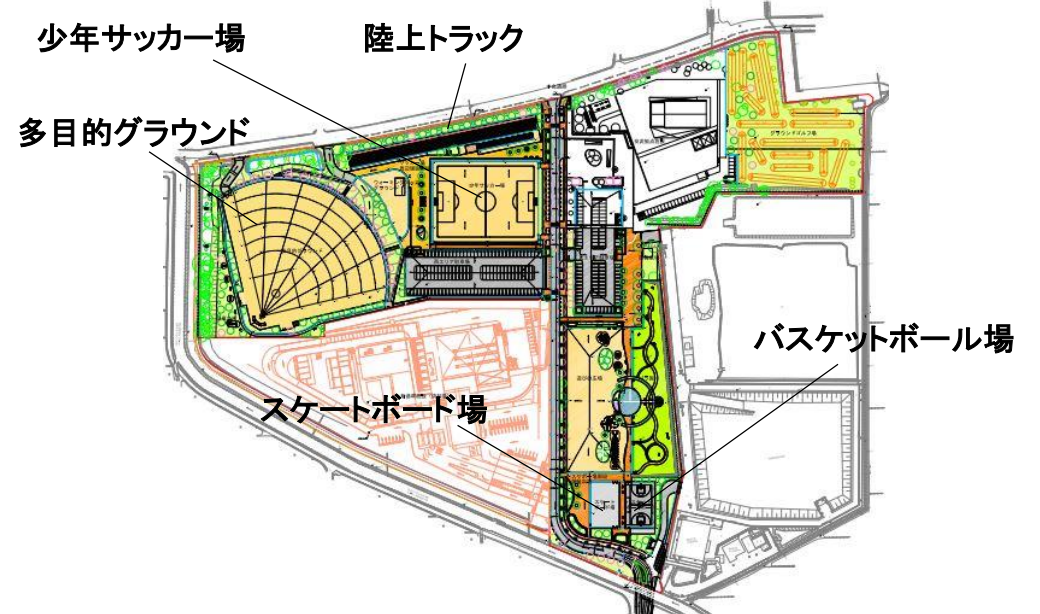
旧環境センターは、昭和60年に稼働を開始し、新環境センターの本格稼働に伴い、令和3年9月末をもって閉鎖をしました。現在は、旧環境センターの解体に向け準備を行っています。

【旧環境センターの解体スケジュール】

- ・令和4年10月19日 : 入札公告
- ・令和4年11月18日 : 入札（落札者決定 & 仮契約）
- ・令和4年12月 : 契約議決
- ・令和5年1月 : 解体工事着手
- ・令和6年3月 : 解体工事完了

【エコパーク公園整備スケジュール】

- ・令和6年度 : 少年サッカー場、陸上トラック、多目的グラウンド等工事着手
- ・令和7年4月 : 少年サッカー場、陸上トラック、多目的グラウンド等供用開始（予定）
- ・令和7年度 : スケートボード場、バスケットボール場工事着手
- ・令和8年4月 : スケートボード場、バスケットボール場供用開始（予定）



環境学習

(1) もりやまエコパーク交流拠点施設における環境学習①

令和3年4月に、「もりやまエコパーク交流拠点施設」が開設しました。

本施設では、環境学習の拠点として、毎月、様々な環境学習を開催するとともに、広報やホームページに加え、SNSを活用し、市内外に情報を発信しております。

多くの方々に交流拠点施設で環境学習に参加いただくよう、市民や企業など有識者で構成された環境学習事業推進委員会との協議を行い、環境学習の推進を図っております。

【目 標】

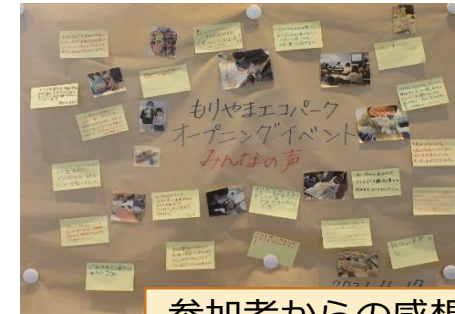
市民が共に学び、考え、行動する「環境学習都市の実現」
(環境都市宣言の具現化)

【方 針】

- 1 環境センターの機能を活かした事業
- 2 環境学習による人と人のつながり強化
- 3 体験環境学習などを通じた環境に触れる機会の拡大
- 4 新たな情報媒体を活用した情報発信
- 5 30～40歳代、中高生などの環境学習参加促進



環境学習の様子

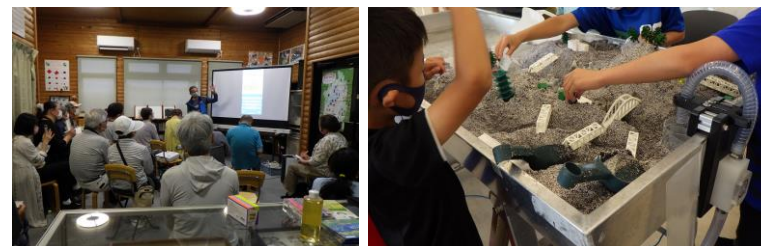


参加者からの感想

もりやまエコパーク交流拠点施設における環境学習②

令和4年度 環境学習事業（テーマ：自然環境）

日時	講演・体験教室名
4月	野洲川で釣り体験をしよう！（雨天中止）
5月	SDGS野洲川を発見しよう！、ホタル撮影会
6月	琵琶湖を冒険しよう！、川のしくみを学ぼう！
7月	琵琶湖を冒険しよう！
8月	陶芸教室、竹水鉄砲教室
9月	トンボ観察会 OOヤンマを見つけよう！
10月	もりやまエコフェスタ （小中高生による環境学習事例発表会、講演会（プラスチックごみは最終的にどこに集積するのか）、オリジナルエシカルラップづくり、環境音楽コンサート、環境センター見学、スタンプラリー他）
11月	—
12月	クリスマスリースづくり
1月	未定
2月	未定
3月	未定



環境学習の様子（エコキャンドル、陶芸教室など）

・まちの話題発信事業
市内中高生により、環境学習を取材し、動画を配信する。

・30歳代～40歳代コミュニティ・ネットワーキング事業
農作業を通して、子育て世代の環境意識の向上を図る。

(2) 小中高生への環境学習

本市の将来を担う子どもたちの環境意識の醸成を図るため、もりやまエコパーク交流拠点施設や学校・園での講習会・体験学習、環境センターと連携した環境学習に加え、本市の恵まれた自然環境を活かしたフィールドワークを取り入れております。

環境学習内容（一例）	学 校
琵琶湖の恵みやごみ問題について	市内小学生
琵琶湖の素晴らしさや大切さについて	市内中学生
環境センターと連携した環境学習 （環境センター施設見学、交流拠点施設での環境学習）	市内小中学生

※その他、市内の学校などへ環境学習を実施しております。

子どもたちの感想

- ・自分が少しでも行動することが必要であると思った。(高校生)
- ・たくさんの方が琵琶湖の水を使っているので大切にしなければならなかったと思った。(小学生)
- ・川は魚のおうちだから、ごみをなくしてあげたい。(園児)など



環境学習の様子